

写

福監発第 2883 号

昭和57年 3 月 9 日

福生市議会議長 末 次 性 男 殿

福生市監査委員 山 下 久 吉
同 貫 井 喜代次

昭和57年 1 月分例月出納検査の結果に
ついて(報告)

このことについて、地方自治法第235条の2第3項の規定に
より、次のとおり報告します。

- | | |
|-------|--|
| 1 検査日 | 昭和57年 2 月26日(金) |
| 2 場 所 | 監査委員事務局 |
| 3 対 象 | 昭和57年 1 月中における収入役の権限に属
する現金の出納状況並びに関連事項 |
| 4 結 果 | 1 月中における現金の出納状況について、関
係帳簿及び証拠書類の検査を実施した結果、
1 月末日における収支の状況は、別紙のとおり
で計数上の誤りは認められなかつた。 |

昭和 5 7 年 1 月 分

1 歳入歳出の状況

昭和 5 6 年度

会計名	予算現額	本月中歳入額	本月末歳入累計額	収入率	本月末現在高
		本月中歳出額	本月末歳出累計額	執行率	
一般会計	千円 11,791,678	円 499,538,628	円 9,123,378,625	% 77.4	円 運△300,000,000
		569,547,156	8,157,901,122	69.2	965,477,503
国保会計	1,183,491	33,868,900	782,886,205	66.2	43,916,141
		86,745,143	738,970,064	62.4	
区画整理 会計	91,262	964,777	34,582,527	37.9	7,458,373
		2,007,099	27,124,154	29.7	
下水道 事業会計	2,678,980	8,109,020	937,977,425	35.0	運300,000,000
		65,596,453	1,194,495,217	44.6	△256,517,792
受託水道 事業会計	574,709	56,136,732	415,901,000	72.4	18,587,689
		52,037,691	397,313,311	69.1	
合 計	16,320,120	598,618,057	11,294,725,782	69.2	778,921,914
		775,933,542	10,515,803,868	64.4	

運は運用金

2 歳入歳出外現金の状況

区 分	前月末現在高	本月中収入額	本月中支出額	本月末現在高
歳入歳出外現金	円 49,964,979	円 98,251,419	円 121,295,491	円 26,920,907

3 基金の状況

区 分	前月末現在高	本月中収入額	本月中支出額	本月末現在高
基 金	用品調達	544,465	327,174	274,743
	土地開発	62,669,481	0	62,669,481
	職員退職準備	52,287,621	0	52,287,621
	庁舎増築	34,832,589	0	34,832,589
	都市施設整備	930,743,215	0	930,743,215
	中小企業振興 基金一時補填	418,000	0	418,000
	仮称第八小学校 建設	637	0	637
	福生市育英	13,100,000	0	13,100,000
	国保高齢者養 老基金	1,459,946	754,317	1,224,611
合 計	1,096,055,954	1,081,491	1,586,548	1,095,550,897

請願第三号

宅地開発等に伴う公園緑地施設用地費負担及び教育
施設費負担の軽減に関する請願書

紹介議員

塩	森	鈴	指
野	田	木	田
鉄之助	治男	藤次郎	保雄
印	印	印	印

平素から当商工会運営について、格別の御協力をいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

申し上げるまでもなく、現今の経済環境は非常に厳しく、中でも建設業界は一層深刻な事態となっております。

当商工会といたしましても、この不況対策について全力を尽くしておりますが、有効な方策がなかなか見当たらない現状であります。

さて、当市における近年の人口の推移を見ますと、年間三百数十人の微増に留まっております。これは自然増を相殺すると、人口の流出をきたしている状況にあり、このような現象は、市の発展のためには十分留意すべきことであると考えられます。一方民間デベロップ等々の住宅建設の現況を見ると、地価の高騰を含む、原価の押し上げにより販売に適さない価格構成となっております。したがってそれら建設業者は、当市内に対しての建設意欲が見られなくなっております。

つきましては、この沈滞ムードを転換し、当市の活性化を図り、あわせて地元産業振興のため左記のことについて、御高配を賜りたくお願いいたします。

記

民間デベロップ等が福生市宅地開発指導要綱を適用される規模の住宅建設を行う場合次の負担を軽減くださるようお願い申し上げます。

一、公園緑地施設用地費負担

二、教育施設費負担

なお、これらの建設工事に必要な資材の地元購入及び地元建設業者の下請採用についても御配慮くださるようお願い申し上げます。

以上

昭和五十七年三月十八日

請願者

福生市本町十八番地

福生市商工会

会長 山下 光一 印

福生市議会議長

末次 性男 殿

議案第三十四号

パイ防止法制定促進に関する意見書

右議案を提出す

昭和五十七年二月二十六日

提出者

賛成者

増野鉄之助 

尾花 

鈴木 

村野武男 

山崎繁三郎 

山崎繁三郎 

初生市議会議長

末次恒男殿

「スパイ防止法」制定促進に関する意見書

わが国が現在の自由で民主的な体制を保持するため、自衛力を持つことは当然であります。ところで自衛力を形づくっている要素は兵器や兵員だけではありません。兵器の性能や兵員の配置などの、いわゆる「防衛秘密」が筒抜けになつては、自衛力は成り立ちません。

そこで世界各國はいずれもそれらの防衛秘密、さうは外交上の機密をも含めての「永続機密」をスパイが守るため、スパイを厳しく処罰する法律を定めています。

共産圏諸国はもちろんのこと、アメリカ、イギリス、フランス、スイスなど言論自由な先進諸国においても、スパイを厳しく罰する法律が施行されています。

日本も独立国である以上、機密を保護する法律を持つべきが当然であります。残念なばかりいまだに整っておりません。

現在の日本が経済的にも思想的にも不安なく平和な市民生活が永久に保障されるためにも、この際改訂をおかれ、これは、スパイ防止法の法制化を早く急ぐ実現されるよう要請します。

右、地方自治法第九十九條ノ二項の規定に基づき意見書を提出しませう。

昭和五十七年三月二十六日

福生市議会議長 末次 性男

内閣総理大臣
總理府總務長官

殿

議案第三十五号

核兵器の全面撤廃と軍備縮少の推進に関する意見書

右の議案を提出す。

昭和五十七年三月二十六日

提出者 高沢 良一

賛成者 向井 市次

村尾 宗次

関 米吉

小野澤 久

福生市議会議長

末次 性男 殿

核兵器の全面撤廃と軍備縮小の推進に關する意見書（草案）

世界恒久平和は人類の共通の願望である。しかし核軍備拡大競争は依然として続けられ、通常兵器の軍備拡大競争も一段と激化し、世界の各地で武力紛争や戦争の絶え間がある。

わが国は世界の唯一の核被爆国として、また平和憲法精神から核兵器の全面撤廃と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たすべきである。

こうした立場から政府に対し、次の諸点を積極的かつ誠実に実行するよう要請するものがある。

- 一、わが国は唯一の核被爆国として、非核三原則を堅持し、あらゆる国のあらゆる核兵器に対し、その全面撤廃に全力を尽くし、あわせて非核兵器の軍備縮小につつとも積極的に推進すること。

一、本年六月に開催される第二回国連軍備縮小特別総会に対し積極的
 取り組み特に包括的核実験禁止条約の締結、核兵器不拡散条約に基
 づく核保有国の核軍備縮小の履行、核兵器国の拡散防止非核地帯の設
 置、核兵器不使用協定の締結、生物化学宇宙兵器の禁止など具
 体的措置の実現のために努力すること。

一、国連を中心として、各国とも協力し、核兵器の全面撤廃と軍備縮小と
 のふし、国連連帯の及核兵器世論の喚起に努力すること。

以上地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提出する

昭和五十七年三月二十日

福生市議会議員 末次性男

内閣総理大臣
 外務大臣
 防衛大臣

議案第三十八号

スパイ防止法制定促進に反対する 末議

右の議案を提出する

昭和五十七年三月二十六日

提出者
 松山 淳
 原 敏子
 遠藤 一
 関 米吉

福生市議会議員 末次性男

福生市議会議員 末次性男

スパイ防止法制定促進に反対する決議

「スパイ防止法」とは一九八〇年四月に自民党がその

要綱を発表したもので、この法案は、防衛秘密の探知、

収集、防衛秘密を取り扱うことを義務とする者の

防衛秘密の漏洩を防止するため、これらの行為を

する者を処罰するものであるが、ここにいう防衛秘

密とは防衛に關する事項及び自衛隊の任務の遂

行に必要な裝備に關する事項に分けられ、この

広い範囲のものが防衛秘密とされている。

承知のとおり、この法案は戦争を放棄し、

軍事機密、軍事機密を定め、定めています。憲法で

否定された事項を法目的とすることは出来ず、この

法案は言うまでもなく、憲法違反であり、国会の内外

で大議論を呼ぶことは必至である。

今日情報公開制度の法制化が急がれている中で